

# 平成 27 年度 第 2 回磐田市総合教育会議 会議録

日 時 平成 27 年 6 月 30 日 (火) 午後 3 時 30 分～午後 4 時 40 分

会 場 磐田市役所 西庁舎 3 階 特別会議室

出席者 市長、教育長、杉本憲司委員、青島美子委員、田中さゆり委員、秋元富敏委員  
(出席者 6 名)

事務局 企画部長、教育部長、秘書政策課長、教育総務課長  
秘書政策課政策推進グループ長、同課同グループ主査、  
教育総務課児童・総務グループ長、同課同グループ主任

傍聴者 2 名 (一般 1 名、報道機関 1 名)

## [会議次第]

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 議事
  - (1) 磐田市教育大綱 (案) について
  - (2) その他
- 4 閉会

[協議の主な内容]

「磐田市教育大綱（案）について」（事務局説明）

市長

宣言文、大綱案、目標的位置付けの設置等についてご意見をお願いしたい。

どの自治体も頑張っていると思うが、磐田市は進んでいると思っている。

大綱案は「磐田の教育」道しるべ、「こども憲章」を参考にし、教育委員の意見を聴きながら事務局でまとめたものである。今後、市民に啓発していくものなので、ことばの使い方等も含めてご意見をいただきたい。

委員

自立するということが大事、そういう子どもたちを増やしていく、育てていくことを考えると、大綱の6つの理念的言葉の順番は、「こころざしを培う」をもう少し前にし、「子育て・教育なら磐田」の目標の位置は上の方がよいのではないかと思う。

委員

人が育っていく過程で大切なのは、基礎・基本をしっかり固め、その上でこころざしをもつということである。

こころざしは、単なる私的な夢や希望だけではなく、社会にとって世のため、人のためにどうあるべきかであるとも考える。

そのため、いのちという絶対的価値があり、誇り、礼節、敬愛、感謝までの基本を身に付け、理念のもと、方向性をつかむことが生きる力につながると考えると、順番は現在の案のものでよいと思う。

委員

大綱では道しるべ、こども憲章のエッセンスがうまくまとめられていると思う。6つの理念的な言葉の順番、目標の位置は案のままでよい。

委員

道しるべ作成時も、まず大切なのは「いのち」であり、次に誇り、感謝などになり、すべてを踏まえることで自立につながると話し合った経緯があるため、順番は案のままでよいと考える。

目標も案の位置でよいと思う。

教育長

大綱には生涯学習の理念的内容を盛り込みたいという思いがあり、その点についてはこころざしを培うの中に反映できたのではないかと考える。

また、未来をひらく方向性を示す上で「こころざし」は欠かせないものである。

いのちを培うの「いのち」をあえてひらがなとしたことで、人間のみならず自然界のいのち、大きくは宇宙空間の営みの面白さ、畏敬の念に関することも含まれてくると考える。

- 市長      みなさんの考えていた大綱のイメージと、今回の事務局案に違和感等はあったか。  
            違和感がないということなので、案のようにシンプルにまとめていくという方向でよいか。
- 委員      「誇りを培う」という言葉は小学生が理解できるか。難しいのではないか。  
            誇りを持ってころざしが生まれると思うので、順番は、いのち、礼節、敬愛、感謝、誇り、ころざしがよいと考える。
- 委員      道しるべをつくる時は、自分のよさを誇りとし、自信をもって行動することが命を大切にすることに結びつくと考えたため、「誇り」を2番目とした経緯がある。
- 市長      思いによって順番は上下すると思うが、文言に違和感がなければ、納得する形で作成していきたい。
- 委員      教育に大切なのは、一人の人間として自尊感情を持ってたくましく生きること尽きると思う。  
            自分という人間はこの世に一人しかいないということや、今、自分の立っている位置をしっかりと認識することが大事である。  
            磐田市教育委員会目標である「ふるさとを愛し」という言葉の意味は重みがあると思う。ふるさとというのは、自分を産み育ててくれたいのちをつなぐ縦のラインがあり、もう一つは家庭や郷土などからなる社会的立場の横のラインがあり、その真ん中に核となる自分がある。そこをしっかりと認識することが教育の原点になるのではないかと考える。そこから前進し成長していく過程を考えると大綱の「誇りを培う」の順番は案のままでよいと考えます。
- 市長      子どもたちにいかに分かりやすく伝えるかということはとても大切なことであり、それをわかりやすく伝える役割が学校であり、親だと思う。  
            大綱は教育界の憲法的な位置付けとなるのか。  
            教育大綱、道しるべ、こども憲章の位置付けはどうなるのか。
- 事務局      大綱は市長が磐田市の教育目標、方針を教育委員会と協議し、定めるのが基本的考え方である。作り方はひとつのパターンがあるわけではなく、いろいろな思いが入ってよいものだと考える。
- 市長      ここ数年で道しるべ、こども憲章、心得などいろいろなものが作られている。  
            それぞれの位置付けはどうなっているのか

- 事務局 教育大綱を市民のみなさんに知ってもらうことが一番大切であり、道しるべ、こども憲章を含め、すべてが入ったものができることが理想と考える。  
大綱の範囲、体系もあわせて考えていくことも必要となる。
- 市長 宣言文からすると、道しるべ、こども憲章を基に大綱を定めるとある。そうすると大綱が上にあり、道しるべ、こども憲章が下にくるイメージとなる。  
納得できる位置付けにしないと、市民への説明ができないと考える。  
  
大綱とする範囲は、6つの理念的な言葉だけを大綱とすると、意味がわからない場合がある。かといって、注釈をつけてしまうと大綱ではなくなってしまふ。  
磐田市教育大綱は、宣言文と6つの理念的な言葉をもって教育大綱と考える。
- 教育長 そうなると、宣言文の最後の文言「未来をひらく礎となる 磐田市教育大綱を定めます」の修正が必要となる。
- 委員 宣言文に「子育て・教育なら磐田」とあるため、6つの理念的な言葉の下に記載された目標もいらなくなると思う。
- 教育長 若干の文言の修正等はあるかもしれないが、大枠でまとまった形でもう一度見直しをしたい。
- 委員 宣言文の中の「学校・地域・家庭の連携・融合」の部分は、幅をもたせた全体的な文章にしたい。  
社会との異文化コミュニケーションが大切である。また、縦軸では世代をつないで文化を継承する意味を言葉の中に入れたほうが内容として全体的に幅をもったものとなってくると考える。学校教育だけでなく、生涯教育が個人の学習に終わらないで社会全体につながっていくようなシステム構築が必要であることなど、異文化と異世代に立体感をもたせ、その真ん中に自分がいるというような内容としたい。
- 教育長 磐田の大地に根を張った人づくりを縦として、地域・家庭・連携の横として表しているが、さらなる広がりの中で縦と横の意味を考える必要があると思う。
- 委員 地域の意味合いは、学校内の学年を超えた交流、地域間、世代間の交流ととらえたらよいか。

事務局 新時代の教育コミュニティとは、学校教育に限定せず、交流センター等でも子育てについて担ってもらうことなども含む概念であり、地域全体での連携と考えます。

委員 縦軸の広がりという意味では、磐田の大地に根を張った人づくりの精神のあとに、「伝統文化を継承し」を追加とすればよいと考える。

委員 自分という人間が、親から命のバトンを受け継いでいること、それを次代につなげていくという意識を持つ大切さなど、つながりの中に自分が存在するという意識を持ち、疎外感を味わうことがないように、家庭だけではなく、地域等でサポートしていくしくみづくりが求められているのではないかと。

委員 この教育大綱は、子どもだけでなく、子どもをとりまくすべての人が対象となるものである。

6つの言葉は人づくりにとって指針となる大切な言葉であり、市民全員に知ってもらうことが大切。

市長 基本は市民全員が目標に向かって頑張れるものでないといけないと思っている。

磐田市教育大綱は、市役所の各課が大綱の理念に沿って施策を進めるような、大上段にあるものとしたい。

文言等の修正が必要となるところは修正し、委員の意見を反映した内容で磐田らしさが伝わるような大綱案の提示を行う予定。

本日の協議はこれにて終了いたします。  
ありがとうございました。